

平成 29 年度

学校関係者評価委員会
報告書

学校法人 愛媛学園

愛媛調理製菓専門学校

平成 29 年度 学校法人愛媛学園 愛媛調理製菓専門学校
学校関係者評価委員会
議 事 録

1. 日 時 平成 29 年 8 月 28 日 (月) 14 時 00 分～15 時 30 分

2. 場 所 愛媛調理製菓専門学校 6 階 第 4 講義室

3. 出席者 <企業等の役員または職員>

委 員 岡崎 城司 氏 (愛媛県調理師会会長、株式会社宝荘ホテル 総料理長)

委 員 伊與田 泰之 氏 (有限会社イヨタ 代表取締役)

委 員 喜舎場 盛孝 氏 (中国料理胡桃 主人)

<学校運営や教育に関する有識者>

委員長 垣原 登志子 氏 (愛媛大学農学部・大学院農学研究科 講師)

<卒業生>

委 員 竹田 廣子 氏 (小料理誠 主人、本校卒業生)

<委員会事務局>

事務局 渡邊 雅子 (愛媛調理製菓専門学校 校長)

事務局 杉野 由美子 (愛媛調理製菓専門学校 教頭)

事務局 佐々木 茂 (愛媛調理製菓専門学校 統括部長)

事務局 宮城 朋子 (愛媛調理製菓専門学校 統括課長)

4. 議 事 I. 平成 28 年度自己評価結果について

- (1) 教育理念・目標 (2) 学校運営 (3) 教育活動 (4) 学修成果
- (5) 学生支援 (6) 教育環境 (7) 学生の受入募集 (8) 財務
- (9) 法令等の遵守 (10) 社会貢献・地域貢献 (11) 国際交流

II. 自己評価結果の学校関係者による評価について

- (1) 教育理念・目標 (2) 学校運営 (3) 教育活動 (4) 学修成果
- (5) 学生支援 (6) 教育環境 (7) 学生の受入募集 (8) 財務
- (9) 法令等の遵守 (10) 社会貢献・地域貢献 (11) 国際交流

評価委員からの評価および意見

| 項 目 | 評 価 ・ 意 見 |
|-------------|---|
| (1) 教育理念・目標 | <p>① 教育理念・目標はしっかりと立てられており、養成施設としての歴史、実績もある。継続して人材育成に取り組んでほしい。</p> <p>② 新校舎でのスタートの年度にあたり、学校の理念や目標についても改めて注目してもらえる機会になったのではないかな。</p> |
| (2) 学校運営 | <p>① 3つの学科の教職員が協力して運営を行うことにより、教育に良い効果が生まれている。</p> <p>② 学校の情報を公開することは、多くの人に安心感を持ってもらうという点で良い取り組みだと思う。</p> |
| (3) 教育活動 | <p>① 食の分野において、調理・製菓・カフェというそれぞれの特徴をいかした学科編成が行われている。</p> <p>② 職場を想定した販売実習の授業は、接客力や商品開発力の向上など現場で求められる人材の育成につながっている。</p> <p>③ 教員研修について協力できることがあれば、遠慮なく相談してもらいたい。</p> |
| (4) 学修成果 | <p>① 全学科を通して、ほとんどの学生が関連分野に就職しており、業界にとってもありがたい。</p> <p>② 調理師免許など社会で実践的に役立つ資格が取得されている。</p> <p>③ 製菓衛生師の合格率が高く、評価できる。</p> |
| (5) 学生支援 | <p>経済的支援については、公的な制度などを含めて情報を収集してみるのも1つの方法だと思う。</p> |
| (6) 教育環境 | <p>① 新校舎は設備が充実しており、学生にとって恵まれた環境である。</p> <p>② 旧校舎の近くに移転したため、在学生の通学への影響が抑えられたと思う。</p> <p>③ 新しい時代に応じた機材や器具の取扱いを学べることは、就職後に役立つ。</p> <p>④ 職人を育てるために、古い道具を大切にすることも伝え続けてほしい。</p> |
| (7) 学生の受入募集 | <p>業界全体が深刻な人出不足に悩んでおり、食の世界を目指す若い世代に対して、団体としてのアピール活動も必要になってきていると感じる。</p> |

| | |
|----------------|---|
| (8) 財務 | 財務に問題はない。新校舎を活用し、中長期的視野に立った戦略的な運営が行われることを期待している。 |
| (9) 法令等の遵守 | 特に問題はない。 |
| (10) 社会貢献・地域貢献 | <p>① 一般の方が学べる講座や地域イベントへの協力など、さまざまな貢献活動が行われており、資源が有効に活用されている。</p> <p>② 街頭募金活動や施設でのボランティア活動を奨励し、学生・教職員とともに取り組んでいることは、教育の面からも望ましい。</p> |
| (11) 国際交流 | 世界には日本で食を学びたい人が多くおり、今年度留学生の受入れが実現したことは、これからの国際交流活動につながる一歩として評価したい。 |